

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1分間スピーチや日記や短作文に取り組んだことで、話すことや書くことへの抵抗感をもつ児童が少なくなっている。漢字小テストをし、繰り返し学習することで漢字の読み書きの力が改善傾向にある。
- ・説明的な文章の学習では、繰り返し出てくる言葉や接続語、文末などの表現に線を引かせて着目させることで、筆者の主張や主張を支える根拠のまとまりに気付くことができるようになった。
- ・文章を書くときに例文を提示することで、活動の見通しをもって書くことができるようになった。また、まとまった文章を書く際に構成メモを作ることで、全体の構成を意識して筋の通った文章を書くことができた。

(2) 課題

- ・文章を適切に読み取ること、正しい漢字を用いたり表記をしたりして書くこと、その場に応じた適切な表現をして話し合いをすることに課題がある。言葉に関心をもたせるような手立てが必要である。
- ・内容を整理してから伝えることへ意識が低く、文章が長くなったり主述がねじれたりすることがある。伝えたい内容を明確にするための手立てが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・知識・技能は目標値を1.0ポイント下回っている。思考・判断・表現は4.5ポイント上回っている。主体的に学習に取り組む態度は10.6ポイント下回っている。		
第5学年	・知識・技能は1.9ポイント、思考・判断・表現は目標値を0.6ポイント、主体的に取り組む態度は6.1ポイント、目標値を下回っている。	・知識・技能は目標値を5.2ポイント、思考・判断・表現は0.2ポイント上回っている。主体的に学習に取り組む態度は7.9ポイント下回っている。	
第6学年	・3つの観点全て、目標値、区平均、全国平均を超えている。	・3つの観点全て、目標値、区平均、全国平均を超えている。	・知識・技能は目標値を10.2ポイント、思考・判断・表現は5.8ポイント、主体的に学習に取り組む態度は4.3ポイント上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第3学年に配当された漢字を書く項目が下回っている。言葉の学習では、主語と述語との関係、語彙の豊かさ、ローマ字の読みが、下回っている。	・物語の内容の読み取りは、目標値を下回っているものが多い。 ・指定された長さで文章を書くことは、13.6ポイント、自分の考えや内容の中心を明確にして文章を書くことは、18.2ポイント、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くことは、13.2ポイント下回っている。	・記述式の問題の無回答が多く、ポイントが下回っている。自分の考えに対して、理由や事例を明確にして伝えたり、書いたりすることが、下回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉の学習では、ことわざの意味や漢字辞典の使い方については理解しているが、修飾語など言葉の分類は下回っている。	・説明文の段落相互の関係を捉える項目が目標値を下回っている。 ・書くことについては、内容の中心を明確にして具体的な事例を書くことが下回っている。 ・話し合いの内容を聞き取ることは、目標値を下回っている。	・書き表し方を工夫したり、目的に応じて文章を簡単に書いたりすることについては、目標値が全国平均を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 短文作りや言葉集めを通して、言葉に関心をもたせる。 漢字や漢字の読みは、授業内容と家庭学習を連動させることで定着を図る。 短作文を繰り返し書く中で助詞の使い方の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や理由を表す言葉や、文例を掲示することによって、分かりやすく書いたり話したりすることができるよう指導する。 児童が書いたり考えたりした内容を、授業の帯時間や朝の会などで1分間スピーチさせることによって、丁寧語で伝えられるような練習を繰り返しさせる。 友達同士で話し合わせたり、写真や絵を見せたりすることで、書く内容についての思いをふくらませる。また、それをどのように表現すると相手に正しく伝わるかを考えさせるために、学年に応じた語彙集やヒントカードを用いて、言葉の意味を確認させていく。 新しい言葉に出会う場面では、教師が意味や似ている言葉を伝え、正しく言葉の意味を理解できるようにする。その際には、写真や動画、動作化などを用いて、児童が視覚的に捉えて意味を理解できるように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてを明確にして見通しをもたせるとともに、児童の感想をもとに興味関心を継続できるように学習計画を立てる。 教師による読み聞かせや、朝読書などの図書時間を確保し、様々な文章に触れさせる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 表現したり理解したりするために、必要な文字や語句について、国語のみならず全教育活動を通して辞書を利用して調べる習慣を身に付けさせる。 家庭学習と連動して繰り返し練習したり、漢字テストを細分化して行ったりすることで、定着を図る。 基礎的な言語事項は、東京ベーシックドリルを使用して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1分間スピーチ等の時間を帯時間で設ける。話型を例示し、「初め・中・終わり」の構成で話をメモ書きでまとめて話す練習を繰り返し行う。1分間スピーチで質問コーナーを設け、毎回質問や感想を言う。 「初め・中・終わり」のまとまりに気を付けて書かせ、まとまりごとに何を書くのかを考えさせる。その際、学んだ言葉を使うように声掛けをしたり、表現の言葉一覧表を持たせて書かせたりする。また『書くて楽しいね』を計画的に活用する。語彙力を高めるため、同音異義語や形容詞を中心に指導をしていく。 分からない語句は必ず辞書で調べて正しく理解させる。また、経験に基づいて、どのような意味なのかを自身の生活に振り返りながら考えさせる。文章中の接続語の意味や、指示語はどこを指しているのか丁寧に指導する。物語においては自分に置き換えながら読むように指導する。また、日常的な読書量をなるべく確保し、語彙や表現方法を増やすようにする。 考えを整理する時間を設け、相手により分かりやすく伝えることができるようにする。また、観点を示し、順序や要点を意識して整理できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画では、児童の生活・学習経験を踏まえ、児童自身の願いや思いも組み入れた言語活動を設定する。 単元のめあてを明確にして、見通しをもたせるとともに、児童の感想や興味・関心をもとに学習計画を立てる。 日常的に短作文を書かせることで、自分の思いを書くことへの抵抗を減らせるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字では、漢字を「形」としてではなく、「言語」として捉えられるように、漢字の意味を確認させる。 家庭学習と連動して繰り返し練習させることで、定着を図る。 基礎的な言語事項は、東京ベーシックドリルを使用して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる単元において、話し合い活動を取り入れ、多様な意見に触れる機会を増やす。相手の意見との共通点や相違点に注目させ、聞く能力を養う。また、立場を明確にした発表を意識させることで、自分の考えをもてるようにする。 複数の情報の整理をする活動を取り入れ、メモの大切さを理解させ、キーワードや記号化、箇条書きなどの効果的なメモの取り方を指導する。 詩や短歌、物語や随筆、意見文や報告文など様々な形式の文章を書く活動に取り組みせ、書くことへの抵抗感を減らすようにする。また、それらについて、構成や記述の仕方を工夫できるように、良い構成や表現の例を多く提示し、日常的に活用できる環境を整える。語彙力を高めるため、言い換えや比喩等の技法を指導する。 「初め・中・終わり」の構成だけでなく、繰り返し出てくる言葉や接続語、前後の文脈から論の展開を捉えて読めるよう指導し、読み取った情報を整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元で取り組む言語活動において、相手意識、目的意識を明確にすることで、学習内容への関心をもたせる。 単元の導入では、児童の生活・学習経験を踏まえ、児童自身の願いや思いも組み入れた学習のゴールを設定する。また、学習計画の流れを明確に提示し、見通しをもって学べるようにすることで意欲を高める。